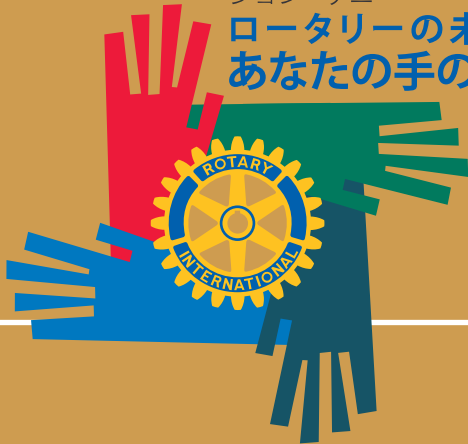


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
夜間花見例会（神居岩温泉）
- 次週予定
会員卓話「GSEを振り返って…」

結婚記念日
5月19日 佐藤 潔

No. 2418

第41回 5月19日

出席報告

前例会

会員総数	44名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	33名
出席率	78.57%

前々会

第38回 4月21日

出席会員	35名
メイクアップ	1名
修正出席率	80.95%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 昨日第11回定例理事会並びに第6回定例クラブ協議会を開催しました。理事会において5月6月のプログラム、4月末の収支決算、IMの決算、GSEの決算を承認いたしました。また、新旧合同理事会の日程を6月3日にする事と、長谷川哲哉会員の副会計就任を了承いたしました。
- ロータリー国際親善奨学生の村上沙織さんから、スピーチを依頼されたクラブのバナーを留萌クラブに送ってきましたので皆様に回覧いたします。



幹事報告

- 1) そらぶちキッズキャンプへ皆様の善意を本日送金いたしました。また田中会員より多額の募金を戴きましたのでご報告いたします。

会報受領先

- ・妹背牛RC 今年度No.34～No.38号
- ・深川RC No.2484号～No.2486号



委員会報告

親睦活動委員会

渡邊副委員長

次週例会は夜桜例会並びに長谷川哲哉会員歓迎会です。場所はホテル神居岩で午後6時30分点鐘、会費は1,000円です。送迎バス時間・コースについては後日FAXにてお知らせいたします

す。多数の参加をお願いします。

🍷 愛好会

マージャン愛好会 齋藤会員

5月26日にマージャン愛好会の最終例会を開催いたします。今回は3卓を目標として開催をしようと思っておりますので、多数の参加をお願いします。6時30分いふにて開催です。よろしくお願ひします。

🏠 3分間情報

会員研修委員会 越野副委員長

「S. A. A. について」

SAA (Sergeant - At - Arms) 武装軍曹の意、本来は英国王室・議会の守衛官のことで、ロータリーでは「会場監督」と呼んでいます。例会場の気品と風紀のことはもちろんですが、例会がその使命を発揮できるように設営し、マネージするという大役です。いわばクラブ奉仕の花形といえます。

ロータリーの本質である「親睦から奉仕へ」の出発点は例会であり、例会こそが、ロータリーの基本活動といえます。先ずリラックスした親睦ムードを作ることが大事です。テーブルの配置、各地のパナー等の飾り、食事の用意、静かなバックミュージックを流す等、心配りが大切です。風紀維持で問題になるのは私語・早退・無断欠席です。このような場合は襷や徽章の手前勇気をもって注意することです。

また、来訪者に対する配慮もSAAの重要な責務です。来訪時の歓迎ばかりでなく、退出時の歓送を忘れてはいけません。

SAAは重要な役柄です。クラブの長老や会長経験者がSAAを務めているクラブが多いようです。

📺 ニコニコBOX

- 先週の例会欠席申し訳ございません IM、GSE共に無事終了する事ができ、皆様に感謝申し上げます 対馬会長
- GSEで留萌では大変お世話になりました トーキル・クリステンセン会員(札幌南RC)
- 沢山の写真いただきました 田中会員
- ガバナー公式訪問やGSEの写真いただきました ありがとうございます ニノ宮会員
- 田中会員よりロータリーバッヂ、河部・佐藤両会員より写真いただきました 澤田会員
- 佐藤・河部両会員写真ありがとうございます 中出、齋藤(清)会員
- 佐藤会員より写真いただきました 中川、深瀬会員
- 河部会員より写真いただきました 深瀬会員
- 写真いただきました 高田、越野、渡部、平井、山本、大嶋、遠藤、鈴木、福士、燕会員

前 回	778,500円
今 回	32,000円
累 計	810,500円

📖 プログラム

「我が生い立ち」

福士 幸子 会員

私は昭和23年10月12日、三女として生まれましました。体重は産婆さんの吊り上げた秤がカチンと音がしたというので、一貫



目はあったのだと思います。今で言えば4キロ近く、いやそれ以上あったのかもしれませんが。昭和22年から24年を団塊の世代といっていましたので、ちょうど団塊の世代のど真ん中に生まれた訳です。小学生のころは1クラス65名位と

記憶しております。中学生の時には1クラス50名位でしたが、12クラスまでありました。

生まれた所は、山形県の酒田市です。日本海に面した酒田港を持ち、庄内平野の米の積出港で栄えたところでした。生まれた時は普通の人家で生まれたそうですが、なぜか物心ついた時には馬小屋で生活していました。私はこの馬小屋が嫌いではありませんでしたが、私より5つ年上の長女にとってはこの時代が人生の中で一番いやな時代だったと、大きくなってからよく話していました。この馬小屋に札幌に引っ越すまで住んでいました。私自身生まれたのが馬小屋であれば今ごろどうなっていたのかと…私は母に「私が生まれる前に馬小屋に引っ越していれば良かったのに」といっておりました。

両親の事を少しお話をしますと、父は長男で名前を清之丞と言います。清はサンズイに青いと書いて、芝居に出てくる雪之丞とか竹之丞とかの丞です。小さいときは清之丞という名前がいやで、何でもっとモダンな名前にしてくれなかったのだらうと、祖父を恨んだそうです。ちなみに、私たち姉妹は長女は清子、二女が清美といいます。私の名前が幸子となった理由は、3人目もまた女の子だらうという事で父が名前を考えてくれず、母が幸せになるようにと幸子と名付けたそうです。私の時代に幸子という名前はとても多く、終戦直後の物資の不足、日本国がどうになってしまうのか分からない時代であり、せめて子供は幸せにと多くの親が思ったのでしょう。

父は戦前と戦後の数年は船の機関士をやっていたそうで、戦争中は九州の鹿児島に船の修理に行っていたそうです。ちなみに修理した船は沖縄に向かって出港していったそうです。札幌に来た時は、父は船を降り色々な仕事をしていました。DDTの散布をしていたこともあります。私が父に「それ効くの？」と聞いたとき、父は「どうかな？人間には気休めも必要だからな」というような事を言っていました。その後行商をやり、私が小学校6年生の時、店舗を構えました。父が仕事を辞めてから話してくれた事ですが、行商を始めた時は、「こんにちは」

と声をかけ、家の中から「はい」と返答があると「魚いらないか」と声をかける事が出来ず、家の人が出てくる前に玄関を飛び出してきたそうです。この頃はまだ桑園に札幌市場はなく、小樽まで毎日買出しに行っていました。まだ車はなく、自転車で桑園駅まで行き、そのあと汽車で小樽まで行きます。私の住んでいた豊平月寒は、札幌の高台に位置していましたので、行きは下り坂ですが、帰りは荷物を満載して自転車で坂を登ってきたわけです。その当時は当たり前かと思っていましたが、今考えると頭が下がります。休みは元旦だけ、二日酔いでも誰かさんみたいに休んだりしません。1年の内364日72歳まで働きました。私が2000年税理士試験に合格した翌年の2001年3月12日86歳にて亡くなりました。

母も長女として生まれていますが、祖母は未婚の母でした。それで母は、母の叔母に育てられました。叔母の家は滝川で農家をやっていたとの事です。子守り、農家の手伝いをしながら4年間尋常小学校へ通ったそうです。年頃になると、農家から色々な縁談話があったそうですが、母は農家には絶対お嫁に行かないと決めていたそうです。20歳までは育ててくれたお礼にと思い、叔母の家で一先懸命農家のお手伝いをし、20歳で親のいる札幌へ出たそうです。親は結婚し、7人の子供がいました。生活は楽ではなく、母が父と結婚するまでの5年間、家計の助けをしたとのこと。母は現在91歳で、札幌のグループホームに入居していますが、私は母に、母らしいことは一つもしてもらっていないと言っております。しかし、今やっと親に甘えることが出来るようになったのでしょうか？

さて、馬小屋に住んでいた私は、小学校に入る年の3月30日に札幌に引越してきました。先ほど話した札幌市豊平区月寒です。札幌ドームから5丁くらい離れた札幌駅よりの所です。今は「ツキサム」と言いますが、私が引っ越してきた当時は「ツキサップ」と言いました。この頃はまだ札幌市と合併しておらず、私が小学校3年生位の時に合併しました。

昔は4月1日が入学式で、荷物がまだ着かず

に、しばらくは札幌駅裏にあった祖母の家から通っていました。その後月寒で、私が1年生、次女が3年生、長女が6年生の学校生活が始まりますが、朝学校へ行くときは3人姉妹で元気に登校します。学校の道がわからなくても姉がきちっと連れて行ってくれるので心配いりません。しかし、帰りはそうはいきません。1年生は最初は2時間くらいで授業が終わり、先生が国道(36号線)まで送ってくれます。そのあと一人で帰るのですが、帰り道がわからない。あの白い歯医者さんの前を通ってきた様な気がするなと、考えていたところで、先生の声がしました。「わからないなら学校へ戻って、お姉さんに送ってもらおう」という事になり、授業中の長女を呼び出し、家まで送ってもらいました。今でも姉は、この話をお姉さん風を吹かして話します。

小学校、中学校、高校と無事に過ごし、大学は希望の大学から入学を拒否され、浪人するかどうかを迷いましたが、自分自身の精神力を考え、大学は諦め就職することにしました。私の就職先は住友ゴム工業で、ダンロップタイヤ・ダンロップゴルフの製造販売会社です。この会社の札幌支店で、商品管理・在庫管理をしました。そしてこの会社で生涯の友人を一人作ることが出来ました。私の大きな財産となっています。その後、私が20歳の頃、母が心臓を患い長期入院という事になりました。父ひとりでは商売が成り立たないということで、私が仕事をやめて店を手伝うことになりました。

2~3年店を手伝い、母も元気になりましたので、再度働くことにしました。勤務先は学習研究社の販売会社で、学研ホームスタデイセンターという所の事務職です。ここでも私は生涯の友を一人作ることが出来ました。また、この会社では毎年1回自己申告というものがありました。就業規則に女性は転勤なしと規定してありましたので、その自己申告に「女性に転勤なしと規定するのはおかしいのではないか。転勤の必要がないから転勤なしというのであれば分かるが、転勤なしと決め付けるのもおかしい」というような事を書きました。なにせ20代の生

意気盛りですので、怖いものはなしで、困ったものでした。それからしばらくたって、本社の経理部に空きがあるから来ないかという誘いがあり、本社勤務となりました。約6年東京暮らしを体験しました。都会の一人暮らし、気ままなもので遅く帰っても誰も何も言いません。ただ、6年も経つとだんだん飽きてきます。

そんな時に、結婚して留萌に住んでいた高校時代の友人から、だんな様の友人を紹介されました。海育ちのせい、海のある街がもともと好きだったので、留萌に来て結婚する事にしました。昭和55年の4月に留萌に来たのですが、4月に足のくるぶしが隠れるほどの大雪が降り大変驚きました。それから都会と留萌の街の違いは、道路を人が歩いていないという事です。特に中通りになると皆無です。最初の半年ほどは、ひとりこの街に置いてきぼりにされたような気がして外出の時には走り回っていました。中央スーパーのあたりまで来ると安心したものです。

昭和56年長女誕生、57年双子の誕生で3人の母になりました。朝起きたら座るのはご飯を食べる時だけ。自分の熱に気がつかず、3人中で一番聞き分けのある次女が、今日は朝から妙にぐずるが、おでこを触っても熱がない、しかしなぜかぐずる。もしやと思って体温計で自分の体温を測ってみたら39度の熱があった事がありました。そんなすべった転んだを繰り返しながら、自分の子供より大きな子供を見ると、うちの子もあんな風に大きくなれるのだろうか？とか、きちんと小学生になれるのだろうか？などと思っているうちに、うちの子供たちも20歳を超え、私は3人の祖母になりました。

以前ロータリー会員の小松宏佐先生の事務所に勤めたのは昭和61年11月ですので、足掛け25年同じ業界にいることになります。税理士登録して10年目になりますが、まだまだあと10年は現役で頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。